



# 明るく住みよいまちづくりを学ぶ

## 寿学級・女性ふれあいセミナー合同学習会



斎藤町長を講師に招いて開かれた合同学習会

町政の現状と今後の計画を把握しようと、町長を招いて寿学級・女性ふれあいセミナー合同学習会「町長と語る」が11月11日、中央公民館で開かれました。今回のテーマは「町の現状と今後の計画を知る」で、講師の斎藤町長から講話が行われました。また、質疑応答では、町長とヒザを交えての懇談が行われ、約30人の参加者はメモを取りながら熱心に聴き入っていました。ここでは、講話と質疑応答の要旨をお知らせします。

講

話

### 町の現状と今後の計画

役場庁舎の整備については、平成13年12月から町長の諮問機関を設置し、一般公募委員をはじめ学識経験者、地域代表者など166人の役場庁舎整備検討委員会で検討を始めました。その結果、役場庁舎は建て替えた方がよいとする答申が全員一致で行われました。さらに、平成14年8月から一般公募委員をはじめ、学識経験者、地域代表者など62人の役場庁舎建設基本計画検討委員会で検討の結果、新たな建設予定地に2万5千2万5千㎡の土地を取得のうえ、総事業費30億35億円で3階建ての庁舎を整備するなどの基本計画が答

申されました。そして、平成15年1月には町議会議員や区長、公募委員など60人の役場庁舎建設委員会を設立しました。答申内容を尊重しながら検討の結果、新庁舎の敷地面積は約1万8千㎡に縮小し、事業費も約26億円に縮小して着々と建設を進めています。現在、基礎工事に着手しており完成は平成17年2月を予定し、4月から新庁舎で執務を行いたいと考えています。また、行政の拠点となるので、将来合併等による行政の利用形態の変化にも対応できるように配慮していきたいと思えます。

また、行政の運営において、公共財産の事業効果が後世の住民に及ぶ場合は、税の公平性の観点から地方債を起こし、後年度にも繰り延べて支払うのが適当であると